

研究番号 2050 号 承認日 2024 年 10 月 1 日
研究実施予定期間 承認後 ～ 2030 年 3 月 31 日

情報公開文書

1. 研究課題名	クローン病術後吻合部潰瘍の病理像と疾患再発の関連についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	本研究ではクローン病の病理検体をもちいて、1) 病理像とその後の疾 患再発、2) 病理像と内視鏡像に関連があるか調べる。大阪警察病院、 大阪大学医学部附属病院で 2010 年 1 月～2024 年 9 月に採取された生 検・手術材料を用いる。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	浜本雄一郎・病理診断科・副医長・大阪警察病院	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	後藤孝吉・病理診断科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 ☐ 侵襲を伴う研究 ☐ 軽微な侵襲を伴う研究 ☒ 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 ☐ 多施設共同研究 ☒ 当院のみの研究 ☐ その他 ()
	〈介入について〉 ☐ 介入を伴う研究 ☒ 介入を伴わない研究 (観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉 ☐ 必要 ☒ オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 ☐ 新規 (取得試料・情報の利用) ☒ 既存 (取得試料・情報の利用) ☐ 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 ☒ 3 年 (提供元の場合) ☐ 5 年 (提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 ☐ 必要 ・モニタリング実施者 () ・監査実施者 () ☒ 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 ☒ あり (具体的な管理方法について：施設下で院内保管) ☐ なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	・実施承認後 ～ 西暦 2030 年 3 月 31 日	
7. 連絡先	氏名：浜本 雄一郎 所属：病理診断科 職：副医長 内線番号： PHS 番号： E-mail：	

研究番号 1636 号 承認日 2022 年 11 月 11 日
 研究実施予定期間 承認後 ～ 2027 年 8 月 31 日

情報公開文書

1. 研究課題名	大動脈解離、胸腹部大動脈瘤等の大動脈疾患における血管平滑筋細胞の分子病理学的特性の検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	大動脈解離や大動脈瘤は、いずれも大動脈壁の脆弱性が関与しており、突然死の原因となる致死率の高い疾患群である。しかし一部の結合組織病を除き、これらの病態形成のメカニズムは不明な点が多い。血管壁を構成している主要な細胞である血管平滑筋細胞は、血管壁の恒常性の維持に重要な役割を果たしている。これまで我々は血管疾患の病態に血管平滑筋細胞のフェノタイプとその生物学的特性が、関与していることを明らかにしてきた。本研究は手術及び病理解剖症例から得られた大動脈壁組織を用いて、血管平滑筋細胞のフェノタイプや発現分子、細胞外基質の分布や小胞体ストレスの関与等を検討し、その病態解明や新規治療の開発を 目的とするものである。 日本大学医学部附属板橋病院、大阪警察病院で大動脈解離、腹部大動脈瘤などの大動脈疾患で手術をおこなった患者から、手術時に摘出した大動脈組織の一部と術前に採取した血液検体の一部を使用する。また、大動脈疾患のない剖検症例から大動脈組織と血液検体を採取する。これらを日本大学医学部附属板橋病院病態病理学系人体 病理学分野教室で分子病理学的特性の検討を行う。 検査項目は小胞体ストレス関連の因子 (KDEL, CHOP, Ero1 など)、平滑筋の表現型 (S100A4, smoothelin, SM-MHC, α-SMA など)、細胞外マトリックス成分 (collagen1, collagen3, elastin など) について、それぞれ組織切片を用いた免疫染色で局在を確認し、western blotting または qPCR で定量化する。また、vasa vasorum について micro dissection をもちいて蛋白を抽出して発現蛋白を測定する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	羽尾裕之・人体病理学分野 (附属板橋病院病理診断科)・教授・日本大学医学部病態病理学系	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	安岡弘直・病理診断科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 ☐ 侵襲を伴う研究 ☐ 軽微な侵襲を伴う研究 ☒ 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 ☒ 多施設共同研究 ☐ 当院のみの研究 ☐ その他 ()
	〈介入について〉 ☐ 介入を伴う研究 ☒ 介入を伴わない研究 (観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉 ☐ 必要 ☒ オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 ☐ 新規 (取得試料・情報の利用) ☒ 既存 (取得試料・情報の利用) ☐ 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 ☒ 3 年 (提供元の場合) ☐ 5 年 (提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 ☐ 必要 ・モニタリング実施者 () ・監査実施者 () ☒ 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 ☐ あり (具体的な管理方法について:) ☒ なし	

6. 研究の対象及び 実施予定期間	・実施承認後 ～ 西暦 2027 年 8 月 31 日
7. 連絡先	氏名： 安岡弘直 所属：病理診断科 職：部長 内線番号： PHS 番号： E-mail:

研究番号 1341 号 承認日 2021 年 3 月 1 日
 研究実施予定期間 承認後 ～ 2026 年 3 月 31 日

情報公開文書

1. 研究課題名	病理診断支援のための人工知能（病理診断支援AI）開発と統合的「AI医療画像知」の創出	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	病理医は慢性的な不足状態にあり、過重な負担を負いながら病理診断を続けており、病理医を支援することは現在の医療に求められている喫緊の課題である。本研究では、①病理診断支援のための人工知能（Artificial Intelligence : AI）-「病理診断支援 AI」の開発を行う、②開発された「病理診断支援 AI」が、病理診断ネットワーク基盤を介し病理診断支援を全国に提供できる体制を構築する ことを最終目標とし、①AI によるダブルチェックシステムの開発（国立情報学研究所連携）、②病理診断報告書の標準化、③診療科間の画像情報統合による AI 医療画像知の創出（日本医学放射線学会、日本消化器内視鏡学会連携）、④匿名加工による研究利用可能なデータベース（Japan Pathology-Artificial Intelligence Diagnostics データベース、JP-AID DB）の整備（一般社団法人 National Clinical Database(NCD)連携）の 4 つの課題をたて、遂行する。そこから生まれる病理診断支援ツールや病理診断生涯教育ツール等は「広く国民の医療・公共の利益」に貢献するものとする。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	北川昌伸・一般社団法人 日本病理学会・理事長	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	安岡弘直・病理診断科・副部長	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 ☐ 侵襲を伴う研究 ☐ 軽微な侵襲を伴う研究 ☒ 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 ☒ 多施設共同研究 ☐ 当院のみの研究 ☐ その他（ ）
	〈介入について〉 ☐ 介入を伴う研究 ☒ 介入を伴わない研究（観察研究）	〈インフォームド・コンセント （アセント）について〉 ☐ 必要 ☒ オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 ☐ 新規（取得試料・情報の利用） ☒ 既存（取得試料・情報の利用） ☐ 既存（残余検体の利用） 【保存年数】 ☐ 3 年（提供元の場合） ☒ 5 年（提供先の場合）	〈モニタリングと監査について〉 ☐ 必要 ・モニタリング実施者 （ ） ・監査実施者 （ ） ☒ 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 ☐ あり （具体的な管理方法について： ） ☒ なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	・実施承認後 ～ 西暦 2026 年 3 月 31 日	
7. 連絡先	氏名： 安岡弘直 所属：病理診断科 職：副部長 内線番号： PHS 番号： E-mail:	

研究番号 1265 号 承認日 2020 年 10 月 16 日
 研究実施予定期間 承認後 ～ 2031 年 3 月 31 日

情報公開文書

1. 研究課題名	広く研究利用可能な病理画データベースの構築と公開		
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	日本病理学会では、2018 年度から 2020 年度にかけて、AMED 委託事業「病理診断支援のための人工知能(病理診断支 援 AI)開発と統合的『AI 医療画像知』の創出」という課題に取り組み、日本病理学会の各支部、及び日本全国の 25 施設から病理画像 whole slide image(以下、P-WSI)と付随する臨床情報、計約 16 万件を収集し、世界に類を見ない P-WSI 巨大データベースを構築した。このデータベースは病理画像を対象とした人工知能開発を含む、様々な研究応 用の可能性を秘めている。AMED からの委託事業は 2021 年 3 月で終了となるが、AMED からの財政支援終了後もこの貴重なデータベースを広く社会に還元するため、データベースを様々な大学・研究機関・企業が広く利用可能なものに 構築し公開することが本研究の目的である。またデータベース利用者から使用料を得てデータベース維持管理のため の資金を確保し、自立・持続的なデータベースの運用を行う。		
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	北川昌伸・一般社団法人 日本病理学会・理事長		
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	安岡弘直・病理診断科・部長		
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 ☐ 侵襲を伴う研究 ☐ 軽微な侵襲を伴う研究 ☒ 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 ☒ 多施設共同研究 ☐ 当院のみの研究 ☐ その他 ()	
	〈介入について〉 ☐ 介入を伴う研究 ☒ 介入を伴わない研究(観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント)について〉 ☐ 必要 ☒ オプトアウト	
	〈試料・情報の利用について〉 ☐ 新規(取得試料・情報の利用) ☒ 既存(取得試料・情報の利用) ☐ 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 ☐ 3 年(提供元の場合) ☐ 5 年(提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 ☐ 必要 ・モニタリング実施者 () ・監査実施者 () ☒ 不要	
	〈対応表の作成の有無について〉 ☐ あり(具体的な管理方法について:) ☒ なし		
6. 研究の対象及び 実施予定期間	承認日～2031 年 3 月 31 日		
7. 連絡先	氏名: 安岡弘直 所属: 病理診断科 職: 部長 内線番号: PHS 番号: E-mail:		